

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成30年度)

施設 の 名 称	宮城県岩出山牧場
指 定 管 理 者 の 名 称	公益社団法人 みやぎ農業振興公社
施 設 所 管 部 課 (室)	農政部畜産課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
～ 平成18年3月	管理委託	社団法人 宮城県農業公社	
平成18年4月 ～ 平成21年3月	指定管理者	社団法人 宮城県農業公社	
平成21年4月 ～ 平成26年3月	指定管理者	公益社団法人 みやぎ農業振興公社	
平成26年4月 ～ 平成31年3月	指定管理者	公益社団法人 みやぎ農業振興公社	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	公益社団法人 みやぎ農業振興公社
	所在地	仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
指 定 期 間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県岩出山牧場	
所 在 地	宮城県大崎市岩出山, 加美郡加美町	
設 置 年 月	昭和46年5月	
根 拠 条 例 等	公共育成牧場条例(昭和46年条例第19号)	
設 置 目 的	県有牛の飼養管理, 肉用牛集団育種推進事業における産肉能力検定事業, 乳用牛及び肉用牛の預託育成事業	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	1,444,000㎡
	構 造	放牧地, 植林地, 事務所・畜舎等の建物26棟, 工作物 ほか
施 設 の 内 容	内 容	・放牧地 812,000㎡ ・建物敷地 30,000㎡ ・その他(植林地等) 602,000㎡ ・主たる建物(事務所1棟, 事業用建物その他15棟, 宿舍1棟) ・工作物 サイロ3基(タワー2基, バンカー1基)
	開 館 (所) 日	
開 館 (所) 時 間	午前8時30分 ～ 午後5時15分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 施設全体の管理運營業務 施設全体の運営マネジメント業務, 施設の総務・経理業務, 施設・機械・設備の維持管理業務(除草, 除雪等含む), 草地管理業務, 衛生・防疫管理業務(環境整備等含む)ほか 2 事業実施に関する業務 (1)預託事業(施設の使用許可, 預託牛募集に関する業務, 預託牛の飼養管理業務等) (2)県有牛飼養管理業務 (3)種付業務(県有牛への種付業務, 預託牛への種付業務, 人工授精用精液の管理等) (4)検定業務(直接検定)	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	牧場使用料, 人工授精料, 除角料

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
開館(所)日数	365 日	365 日	365 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	80 人	57 人	40 人	50.0%	70.2%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
牧場案内	50 人	37 人	14 人	28.0%	37.8%
実務研修生	人	1 人	1 人	#DIV/0!	100.0%
預託利用者	30 人	19 人	25 人	83.3%	131.6%
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	80 人	57 人	40 人	50.0%	70.2%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
県指定管理料	76,197	76,197	76,197	100.0%	100.0%
利用料金収入	7,723	8,727	9,702	125.6%	111.2%
その他		598	527	#DIV/0!	88.1%
収入計 (a)	83,920	85,522	86,426	103.0%	101.1%

(2) 支出

人件費	40,957	34,034	35,781	87.4%	105.1%
施設管理費	9,480	12,626	12,732	134.3%	100.8%
事業運営費	32,760	33,602	37,828	115.5%	112.6%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支出計 (b)	83,197	80,262	86,341	103.8%	107.6%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	723	5,260	85	11.8%	1.6%
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平成30年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
	評価		評価		評価		
①管理運営体制	指定管理者として施設の維持管理を適切に行うとともに、肉用牛飼養農家からの希望に応え、預託の自主事業を実施した。また、職員の能力向上のため積極的に研修に参加した。		適切な管理運営を行うことができた。		A	施設全体のマネジメントとして総務・経理業務及び施設・機械・設備維持管理業務を含む各種業務を実施し、適正な体制により管理運営に万全を期した。	A
人員体制	正規	3人	非正規	5人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	施設、機械等の老朽化が進む中、各設備の状況の把握と使用前点検、および定期点検を行い、適正な維持管理に努めた。		各設備の適正な維持管理に努めたため、効率の良い作業を行うことができた。また、日常点検を徹底したため、作業の安全を確保することができた。		A	施設・機械の老朽化が顕著となっている中、日常的な保守点検や修繕が適切に実施されており、大きな事故も無く、安全に効率良く維持管理が行われている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	家畜保健衛生所、畜産試験場、獣医師の指導を受け、衛生、防疫の管理に努めた。日常から、巡視を徹底し、早期発見、早期治療に努めた。また、子牛がいる牛舎は保温対策をとり環境の改善を図った。		家畜保健衛生所、畜産試験場、獣医師の指導の下衛生、防疫の管理を徹底することができた。		A	家畜を管理する上で、その防疫衛生対策は非常に重要な業務になるが、県獣医師の指導に適切に対応し、疾病等も少なく、概ね善良な管理がなされている。	A
④自主事業の実施	農家からの「非放牧期間(11月～3月)」に係る預託希望に応えるため、周年で預託牛の受け入れを実施した。		放牧できない期間についても舎飼いによる預託を希望する農家が多かったため、11月から3月までを周年預託期間と位置づけ、年間を通しての預託事業を実施した。		A	利用者からの要望に応じて周年放牧事業を実施しており、アンケート結果から当事業は生産者から好評で利用者サービスにつながっていると同時に、収益性も確保していることから、評価できる取組である。	A
⑤利用者サービスの向上	研修者、預託者、直検牛飼養者、来訪者などへの場内案内を行うとともに、市場上場時の農家への説明などを行った。		研修生や見学者を積極的に受け入れた。多くの利用者に牧場の事業説明を行い、牧場への理解を深めてもらうことができた。		A	預託希望者への事業説明や預託者に対する預託牛の現状報告に加え、研修・視察の受入など、利用者に向けた適切なサービス提供が行われている。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	預託事業について利用農家からアンケートをとった。2ヶ月おきに入牧できるように欲しい、預託頭数を増やして欲しいとの複数の要望があったが、現在の状況では難しい旨説明し、理解をいただいた。		預託者からは事業内容には全体的に満足との評価を得ることができた。		A	主な利用者である預託事業利用者にアンケートを実施し、意見・要望を把握しており、対応困難な要望に対しても丁寧に回答されている。	A
⑦安全対策	平成28年度に作成した種雄牛安全管理マニュアルに沿って安全対策を徹底した。		労働安全衛生の研修などを積極的に受け、安全に対する意識を高めることができた。また、安全管理マニュアルの徹底により、安全に作業することができた。		A	日常作業での安全確認を徹底するとともに、労働安全衛生研修会等への参加などにより一層の意識高揚が図られている。また、危険を伴う種雄牛管理においては、独自の安全管理マニュアルに基づく対応により事故無く作業されている。	A
⑧県民の平等利用	預託事業は県内全域を対象に、市場上場時やパンフレットにて広く周知を行い、平等利用に努めた。		利用者、研修生、見学者などからは牧場の事業及び職員対応について良い評価を得ることができた。		A	預託事業の周知において、県内全域から生産者の集まる家畜市場での実施や、県出先機関・市町村等と連携するなど、県内に広く周知されている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	個人情報保護法に基づき個人情報の適正な管理を実施した。	適正な管理の下個人情報の保護を図ることができた。	A	預託者情報等の個人情報管理は、適切に実施されていると認められる。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり。	モニタリング検査の結果、平成29年度より正式な預託牛事業の実施が可能になったため、実績を上げることができた。	A	主要業務である預託事業の利用実績については、昨年度に比べて利用戸数、頭数とも増加し、受入可能な最大限まで利用されている。	A
⑪収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおり。	老朽化が進む中、適正な管理を行い支出を押さえることに努めた。また、利用料金の収入を上げることができた。	A	施設管理が適切に行われている中で、利用料金収入増加かつ経費削減がなされており、限られた管理料の中で運営されていることは高く評価できる。	A
⑫その他の取組	環境配慮の取り組みを積極的に行った。	節水、節電をはじめ、再生紙の利用、堆肥の農地還元、側溝清掃や場内道路脇草刈り、廃油のパンククリーナー等への潤滑油としての再利用など環境へ配慮した取り組みを行うことができた。	A	環境に配慮した再利用や節減の取組は、高く評価できる。	A
総合評価		施設の整備・維持管理と、預託牛・県有牛の飼養管理、及び検定事業などを適正に実施することができた。	A	施設設備等の維持管理、預託牛の飼養管理及び利用料金制に係る経理事務、県有牛の飼養管理及び検定業務等、多岐に渡る業務をその高度・専門的技能により適切に実施されていたと認められる。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	施設・設備の老朽化により、今後維持管理がさらに難しくなる事が予想される。	<ul style="list-style-type: none"> 施設・機械の老朽化に伴う更新・修繕 基礎雌牛高齢化に対処する早期更新 自給飼料の増産 労働負担の軽減